

武蔵野市気候市民会議 (第3回)

令和4年9月27日

武蔵野市気候市民会議 について

実施体制

武蔵野市気候市民会議

参加者

68人

アドバイザー

- ・ 東京大学未来ビジョン研究センター教授
国立環境研究所 上級主席研究員
江守正多氏

事務局

- ・ 武蔵野市環境政策課

グループ討議支援・オンライン対応

- ・ アオイ環境(株)

背景

近年、地球温暖化が原因とみられる異常気象が多発
2050年に向けて、私たちの暮らしの中でも、「大きな転換」が必要

武蔵野市気候市民会議

- 地球温暖化・気候危機問題を共有し、脱炭素社会を目指してその対策について話し合っていく場。
- 気候変動問題の当事者としての「気づき」や「行動変容」を市全体へ広げていく

武蔵野市

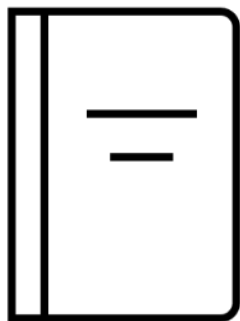
2050ゼロカーボンシティ表明
(令和3年2月表明)

武蔵野市地球温暖化対策
実行計画(事務事業編)
(令和4年4月改定)



気候危機打開武蔵野市民
活動プラン(仮称)
(令和5年4月作成予定)

目指すこと



武蔵野市気候市民会議

無作為抽出などによって選ばれた市民が、
地球温暖化・気候変動対策について話し合う

(全5回：令和4年7月～11月)

- ① 市では、会議の議論を踏まえ、市民一人ひとりの環境配慮行動を示す「気候危機打開武蔵野市民活動プラン（仮称）」を作成
- ② ご意見を参考に支援の取組を行うことにより、市民の行動を後押し

全体スケジュール

	第 1 回 (7 月 26 日)	第 2 回 (8 月 23 日)	第 3 回 (9 月 27 日)	第 4 回 (10 月 25 日)	第 4 回 後	第 5 回 (11 月 22 日)
説 明	ガイダンス	前回の確認、 本日の進め方	前回の確認、 本日の進め方	前回の確認、 本日の進め方	これまでの議論をふまえたテーマ別アンケート	本日の進め方、 市民活動プラン の作成について
講 演 (25分～30分)	講演・対話 地球温暖化の 現状とこれか らの社会 東京大学未来 ビジョン研究 センター教授 ／国立環境研 究所 上級主席 研究員 江守正多氏	テーマ別講演 モノを買う、 使う、手放す (公財) 消費 者教育支援セ ンター 柿野 成美氏	テーマ別講演 動く・働く (学ぶ)・遊 ぶ 国立環境研究 所 社会シス テム領域 (地域 計画研究室) 室長 松橋啓介氏	テーマ別講演 住まいのエネル ギー 東京大学大学院 工学系研究科建 築学専攻 准教 授 前 真之氏		報告等 各回の討議結果、 アンケート結果 の発表 武蔵野市 環境政策課
グルー プ討議 (65～80分)	2050年ゼロカーボ ンシティ実現後の 武蔵野市の姿	モノを買う、使 う、手放す	動く・働く (学 ぶ)・遊ぶ	住まいのエネル ギー		アンケート結果 の共有 全体のふりかえ り
参加者交流 目線合わせ		テーマ別のグループ討議			ふりかえり・まとめ	

6

本日の進め方

本日のスケジュール

時間	内 容		全体/グループ 別 (記載無し = 全体)	録画 公開
18:30	開会			WEB
	ガイダンス	本日の進め方、前回の振り返り他		WEB
18:40	ゲストティーチャー講演	テーマ「動く・働く（学ぶ）・遊ぶ」		WEB
19:00	質疑応答	講演に関する質疑		WEB
19:05	グループ討議	「動く・働く（学ぶ）・遊ぶ」について グループでディスカッション	グループ別	
20:00	発表	グループ代表から発表		WEB
20:15	振り返り	発表に対する講師講評		WEB
	その他	次回予告、事務連絡		
20:30	閉会	閉会		

前回（第2回市民会議） の振り返り

グループ討議結果

令和4年8月23日 第2回武蔵野市気候市民会議 討議テーマ「モノを買う、使う、手放す」

オンライン
βグループ^o

モノを
買うモノを
使う

モノ
手放す

行動

波及効果

追加
×千

2022年の学校では...

毎日のように学
校でSDGsの話題
が挙がります。

夏休みの課題もSDGsネタ

追加意見（会議後アンケートより）

マイボトルやマイ箸、ものの塗り合いに関して。その波及効果について、ものを大事にすると人と繋がりができるかと定性的な効果ではなく、定量的な効果がどこまであるのかが見えづらい。

ゴミ箱の大きさを小さくすると排出するゴミの量に間違い、波及効果としてゴミ箱で場所を取らなくなる。



グループ討議結果

柿野先生からの講評

自身の生活を振り返りながらグループで作業を行うことで、たくさんのアイディアが出てきました。他のメンバーの異なるアイディアから、さまざまな気づきがあったことと思います。

この気づきから、まずは、できることから一つずつ、行動に移していきましょう。

そして、今後さらに脱炭素型の社会へと変革するために、私たち消費者市民にどんな行動ができるのか、常に自身に問いかけ、仲間と共に新しい一歩を踏み出してみましょう。

全国に広がる最初のうねりが武蔵野市から誕生することを期待しています。

講演に対する質問（アンケート）

NeedsとWantsの違いについて、もう少し知りたい。

「食」について、どう考えればよいか？

「地球温暖化を1.5°C未満に抑える」ために必要なCO2削減量（7,270→3,000kg-CO2）を達成できるのか聞きたい。

脱炭素型ライフスタイルでは、GDPの拡大ペースは鈍化、若しくは縮小に向かうと思われるが、それは容認する/それを目指すということか？

市民に環境配慮義務を課すことは、法理論上可能でしょうか。

社会や環境に与えるインパクトを考えて買う時の、選び方の指標になるようなマークや認証制度について、教えてほしい。

商品に伴うCO2（カーボンフットプリント）が表示されていると消費者は選びやすい。事例を教えてほしい。

「日々の消費生活において、さらにできることを考えよう」とありました。具体的に声を届られる窓口や、どんな地域の活動があるかをまとめてあるウェブサイト等を教えてほしい。

講演に対する質問、回答（柿野先生）

NeedsとWantsの違いについて、もう少し知りたい。

「食」について、どう考えればよいか？

「地球温暖化を1.5°C未満に抑える」ために必要なCO2削減量（7,270→3,000kg-CO2）を達成できるのか聞きたい。

「ニーズ」は生活に欠かせない必需品の位置づけ。

「ウォンツ」はなくても困らないけれど、あったらいいな、欲しいなと思うもの。

できるだけ季節の旬の食材を味わったり、近くで作られたものを選ぶ（地産地消）。家庭菜園なども選択肢の一つ。フードロス削減も大切な視点。

消費者個人が日々の生活で工夫するだけでは難しいので、社会変革につながるような行動がより重要ではないか。

講演に対する質問、回答（柿野先生）

GDPが鈍化、もしくは縮小に向かうという前提だが、脱炭素による新しいイノベーション等により必ずしもそうではないかもしれない。

脱炭素型ライフスタイルでは、GDPの拡大ペースは鈍化、若しくは縮小に向かうと思われるが、それは容認する/それを目指すということか？

市民に環境配慮義務を課すことは、法理論上可能でしょうか。

消費者基本法においても、第7条で消費者の努力義務を定めている。

- 必要な知識を修得し、必要な情報を収集する等自主的かつ合理的に行動すること
- 環境の保全及び知的財産権等の適正な保護に配慮すること

講演に対する質問、回答（柿野先生）

サステナブル・エシカル消費につながるラベルについては、以下のウェブサイトが参考になります。 <https://jsl.life/>

カーボンフットプリントについて分かるラベル（CFPラベル、エコリーフ）があります。

<https://ecoleaf-label.jp/about/index.html#mark>

【事務局補足】

まとめてあるウェブサイトの一つに、東京都の「東京くらしWEB」があります（ただし、個別案件で声を届けられる窓口はありません）。

<https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/manabitai/ethical/>

社会や環境に与えるインパクトを考えて買う時の、選び方の指標になるようなマークや認証制度について、教えてほしい。

商品に伴うCO2（カーボンフットプリント）が表示されていると消費者は選びやすい。事例を教えてほしい。

「日々の消費生活において、さらにできることを考えよう」とありました。具体的に声を届けられる窓口や、どんな地域の活動があるかをまとめてあるウェブサイト等を教えてほしい。

グループ討議に対する感想（アンケート）

武蔵野市が決める、武蔵野市でやることを討議する会議ではありませんか。
各グループの主な討議ポイントは個人の「やること」に大変偏っていたと感じました。

物の買い方を変えていくことについて、意識が高い方は既に実践しているが、世の中の大多数が参画していくためには、政策的な対応（自然に対して影響のある商品の販売禁止や税制を不利に変更する）が必要になってくると考えます。

会議の運営に対する意見等（アンケート）

会議全体・ディスカッションの進行を改善すると、より安心感を持って臨めると感じる。

（意見をまとめる時間を設ける）

話し合いやまとめの時間をもう少し長くとるとよい。

ブレストの原則を確認しておく、流れがスムーズになる。

- ① 批判はしない
- ② たいしたことのないようなアイデアも歓迎する（自由奔放）
- ③ 質より量を重視
- ④ アイデアを連想、結合し便乗する

（オンラインの班）
ホワイトボード機能（Google Jamboard）は、使いやすく、見やすかった。

（オンラインの班）
会場のネットワーク環境が弱い。

ゴールに向けて、どんな案がほしいか、市としてどんなサポートを行うのかが分かると、より議論が進むと思う。

議論の結果が、市民活動プランにどう反映されるのか、よくわからない。

グループ討議資料を事前送付すれば、準備ができると思う。

全体スケジュール（変更前）

	第1回 (7月26日)	第2回 (8月23日)	第3回 (9月27日)	第4回 (10月25日)	第5回 (11月22日)
説明	ガイダンス	前回の確認、 本日の進め方	前回の確認、 本日の進め方	前回の確認、 本日の進め方	本日の進め方、 市民活動プラン の作成について
講演 (25分～30分)	講演・対話 地球温暖化の現 状とこれからの 社会 東京大学未来ビ ジョン研究セン ター教授／国立 環境研究所 上級 主席研究員 江守正多氏	テーマ別講演 モノを買う、使 う、手放す (公財) 消費者 教育支援セン ター 柿野 成美氏	テーマ別講演 動く・働く（学 ぶ）・遊ぶ 国立環境研究所 社会システム領 域（地域計画研 究室）室長 松橋啓介氏	テーマ別講演 住まいのエネル ギー 東京大学大学院 工学系研究科建 築学専攻 准教授 前 真之氏	報告等 各回の討議結果、 武蔵野市の特性 武蔵野市 環境政策課
グループ 討議 (65～80分)	2050年ゼロカー ボンシティ実現 後の武蔵野市の 姿	モノを買う、 使う、手放す	動く・働く (学ぶ)・遊 ぶ	住まいのエネ ルギー	全体ふりかえ り、投票

参加者交流
目線合わせ

テーマ別のグループ討議

ふりかえり
・まとめ

全体スケジュール（変更後）

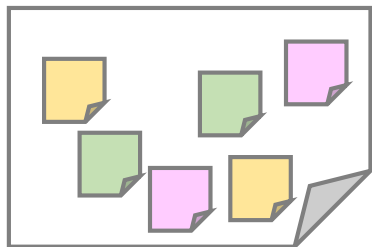
	第 1 回 (7 月 26 日)	第 2 回 (8 月 23 日)	第 3 回 (9 月 27 日)	第 4 回 (10 月 25 日)	第 4 回 後	第 5 回 (11 月 22 日)
説 明	ガイダンス	前回の確認、 本日の進め方	前回の確認、 本日の進め方	前回の確認、 本日の進め方	これまでの議論をふまえたテーマ別アンケート	本日の進め方、 市民活動プラン の作成について
講 演 (25分～30分)	講演・対話 地球温暖化の 現状とこれか らの社会 東京大学未来 ビジョン研究 センター教授 ／国立環境研 究所 上級主席 研究員 江守正多氏	テーマ別講演 モノを買う、 使う、手放す (公財) 消費 者教育支援セ ンター 柿野 成美氏	テーマ別講演 動く・働く (学ぶ)・遊 ぶ 国立環境研究 所 社会シス テム領域 (地域 計画研究室) 室長 松橋啓介氏	テーマ別講演 住まいのエネル ギー 東京大学大学院 工学系研究科建 築学専攻 准教 授 前 真之氏		報告等 各回の討議結果、 アンケート結果 の発表 武蔵野市 環境政策課
グルー プ討議 (65～80分)	2050年ゼロカーボ ンシティ実現後の 武蔵野市の姿	モノを買う、使 う、手放す	動く・働く (学 ぶ)・遊ぶ	住まいのエネル ギー		アンケート結果 の共有 全体のふりかえ り
参加者交流 目線合わせ		テーマ別のグループ討議			ふりかえり・まとめ	

プラン作成の流れ

市では、会議の議論を踏まえ、市民一人ひとりの環境配慮行動を示す
「気候危機打開武蔵野市民活動プラン（仮称）」を作成します。

武蔵野市 気候市民 会議

第2回～第4回の
討議結果＋追加意見



武蔵野市の特徴などの
情報提供

第4回 終了後 アンケート

各回の討議結果から、
環境配慮行動・取組を
項目立て

それぞれの項目に対し
回答

例

Q 1. ○○を△△する

- ・取り組むべきと思うか
(思う-----思わない)
- ・実践の難しさ
(難しい-----簡単)

アンケート 結果

アンケートの結果を
第5回会議にて発表
＋分析

<目的>

- ・プラン作成に向けた傾
向の把握
- ・多様な視点の共有

第5回会議

アンケートの結果を
もとに振り返る

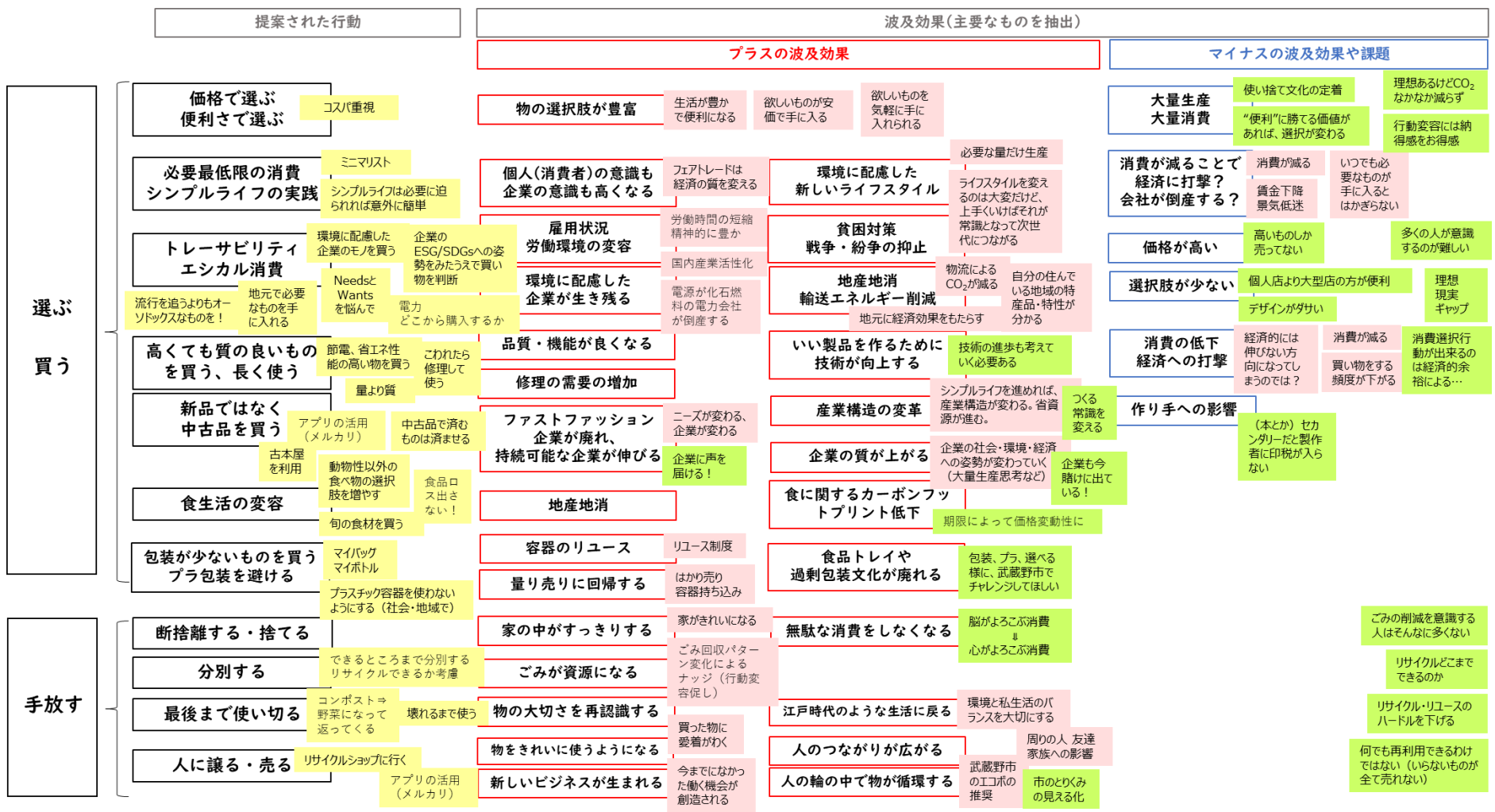
<GW>

- ・なぜ取り組むべきと考えた／
考えなかったか
- ・何を目標として取り組むのか
- ・実行していくために何が必
要か など

武蔵野市気候市民会議報告書

武蔵野市気候危機打開武蔵野市民活動プラン（仮称）

アンケート項目について（イメージ）



※全グループの模造紙をまとめたもの。アンケート実施時に発表

アンケート内容について（イメージ）

テーマ1 モノを買う・使う・手放す

第2回 武蔵野市気候市民会議

令和4年7月26日 開催

＜講師＞ 柿野成美氏（（公財）消費者教育支援センター）

＜会議URL＞

http://www.city.musashino.lg.jp/kurashi_guide/shouene_eco/1036360/1039665/1040115.html



1 環境に配慮した商品、企業のモノを積極的に購入する

関連 トレーサビリティ／エシカル消費

武蔵野市民が積極的に取り組むべきだと

☐ 思う ☐ どちらかというと思う ☐ どちらかというと思わない ☐ 思わない

実践・実現の難易度

☐ 簡単 ☐ どちらかという簡単 ☐ どちらかという難しい ☐ 難しい

2 プラスチック容器・包装を避ける、包装が少ないモノを買う

関連 マイバック／マイボトル

武蔵野市民が積極的に取り組むべきだと

☐ 思う ☐ どちらかというと思う ☐ どちらかというと思わない ☐ 思わない

実践・実現の難易度

☐ 簡単 ☐ どちらかという簡単 ☐ どちらかという難しい ☐ 難しい

3 新品ではなく、中古品を購入する

関連 フリマアプリの活用／古本屋を利用

武蔵野市民が積極的に取り組むべきだと

☐ 思う ☐ どちらかというと思う ☐ どちらかというと思わない ☐ 思わない

実践・実現の難易度

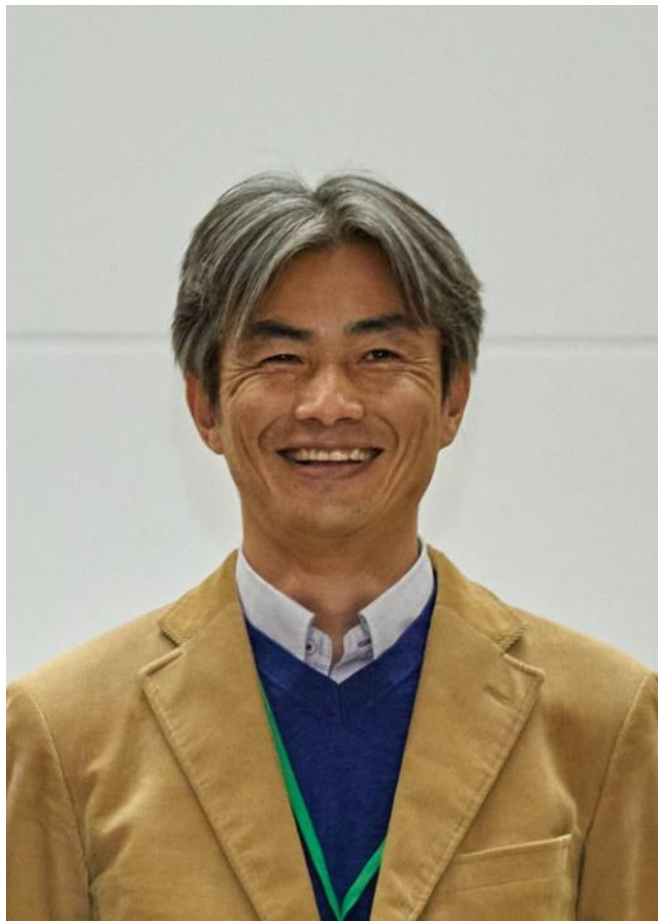
ゲストティーチャー講演

講師 松橋啓介

プロフィール

国立環境研究所 地域計画研究室長

筑波大学システム情報系教授（連携大学院）



専門は持続可能な都市と社会に関するシナリオ分析。

つくば市環境審議会委員等。共著に『低炭素都市』『市民生活行動学』等。

武蔵野市気候市民会議

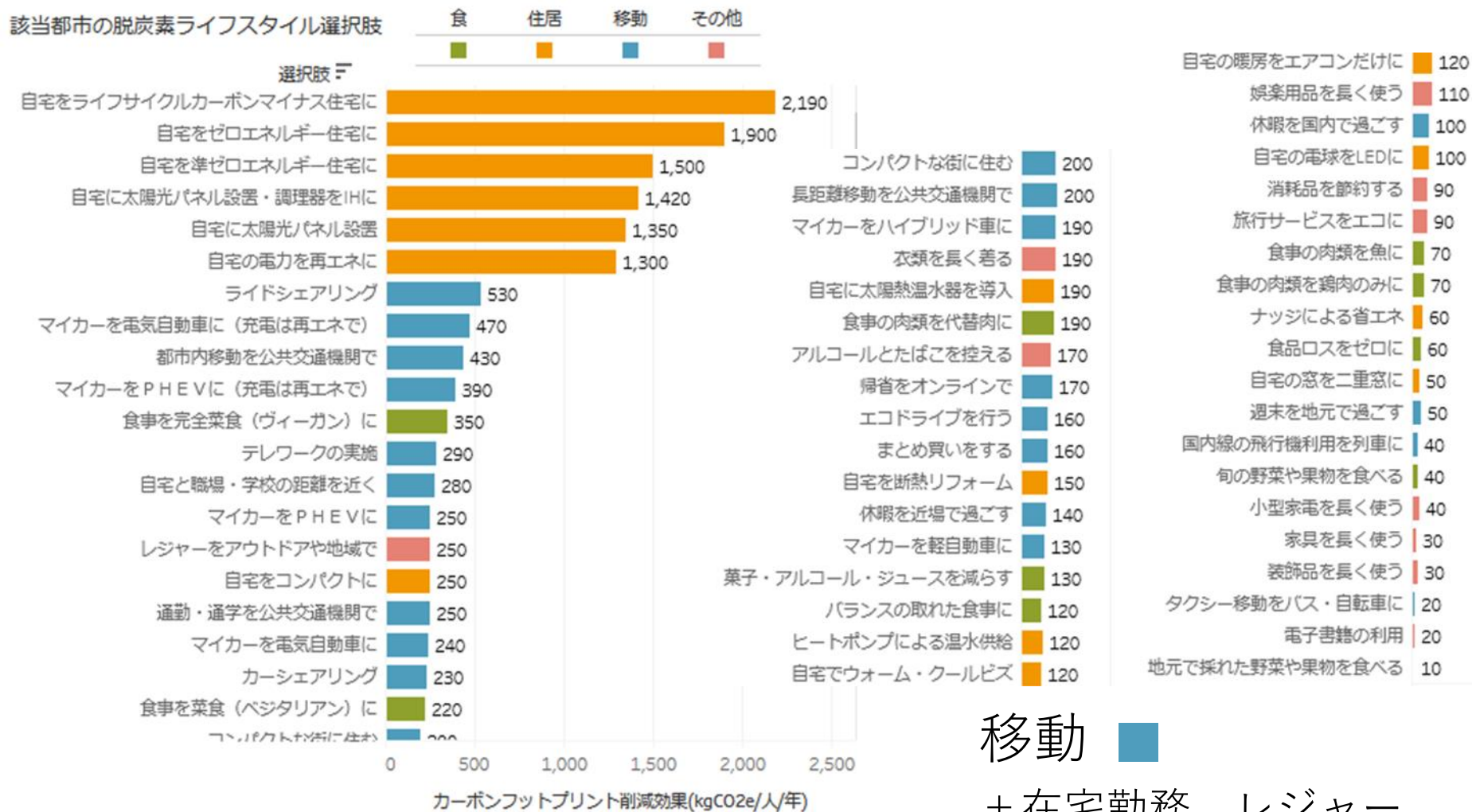
動く・働く（学ぶ）・遊ぶ

国立環境研究所

松橋啓介

脱炭素ライフスタイルより ～動く・働く（学ぶ）・遊ぶ～

該当都市の脱炭素ライフスタイル選択肢



出典：『脱炭素型ライフスタイルの選択肢』

脱炭素に向けて、移動を、どうすれば良いのか？

- 日々の地道な努力の積み重ね
 - エコドライブに努める
 - できるだけ歩くか自転車やバスを使う
- 長い目で見て大きな決断
 - 燃費が良く、大きすぎない自動車を選ぶ
 - 公共交通や徒歩が使いやすい住まい、職場を選ぶ
- 地域社会への働きかけ
 - 公共交通や徒歩が使いやすいまちにする
 - 環境負荷の小さい選択が得をするしくみにする

促進・啓発

制度整備

市民参加

移動で、CO₂はどれくらい発生しているか？

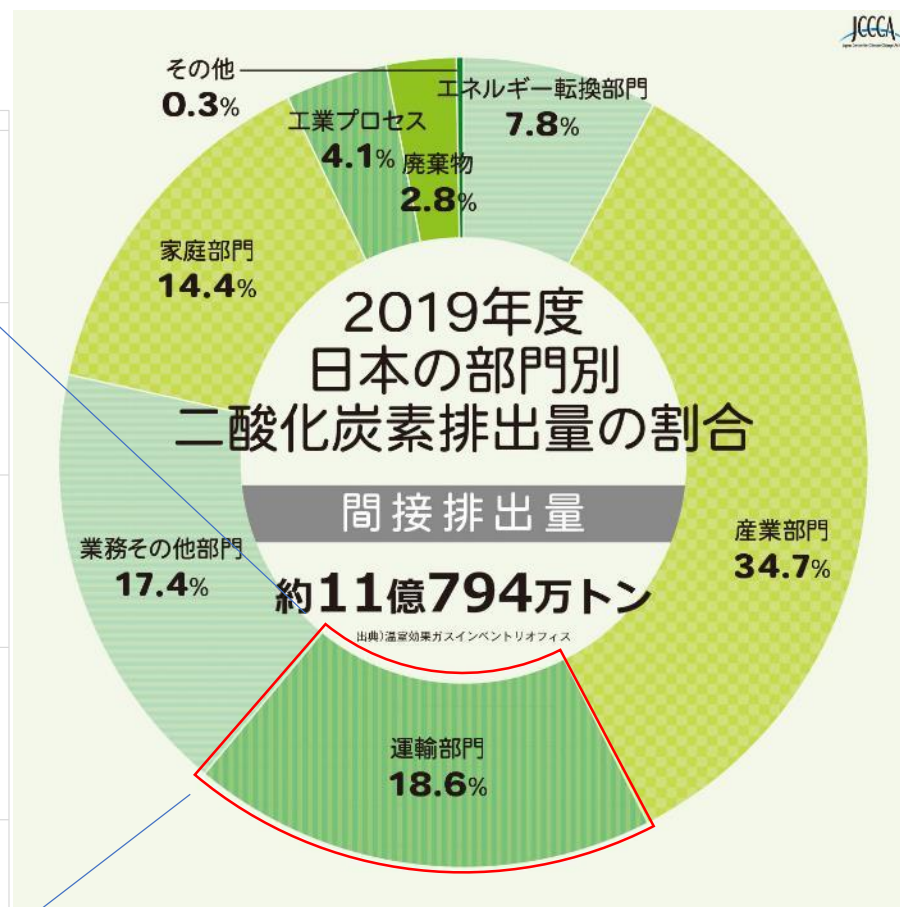
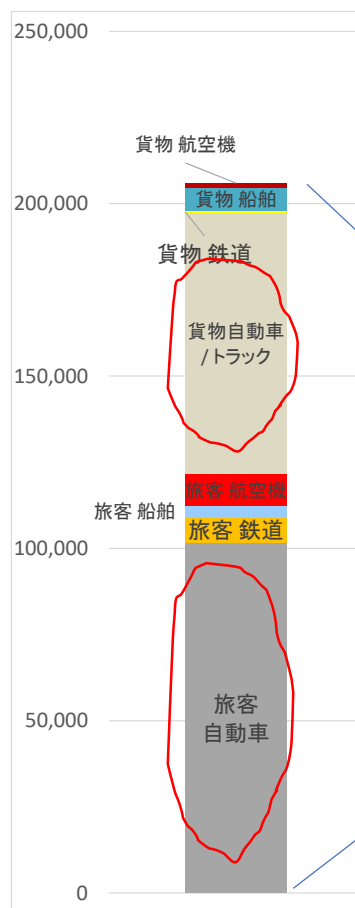
運輸 = 移動 + 輸送で全体の2割弱

その中では、
自動車**が86%**
旅客自動車**が半分**

ガソリン等の化石燃料が
多く使われる

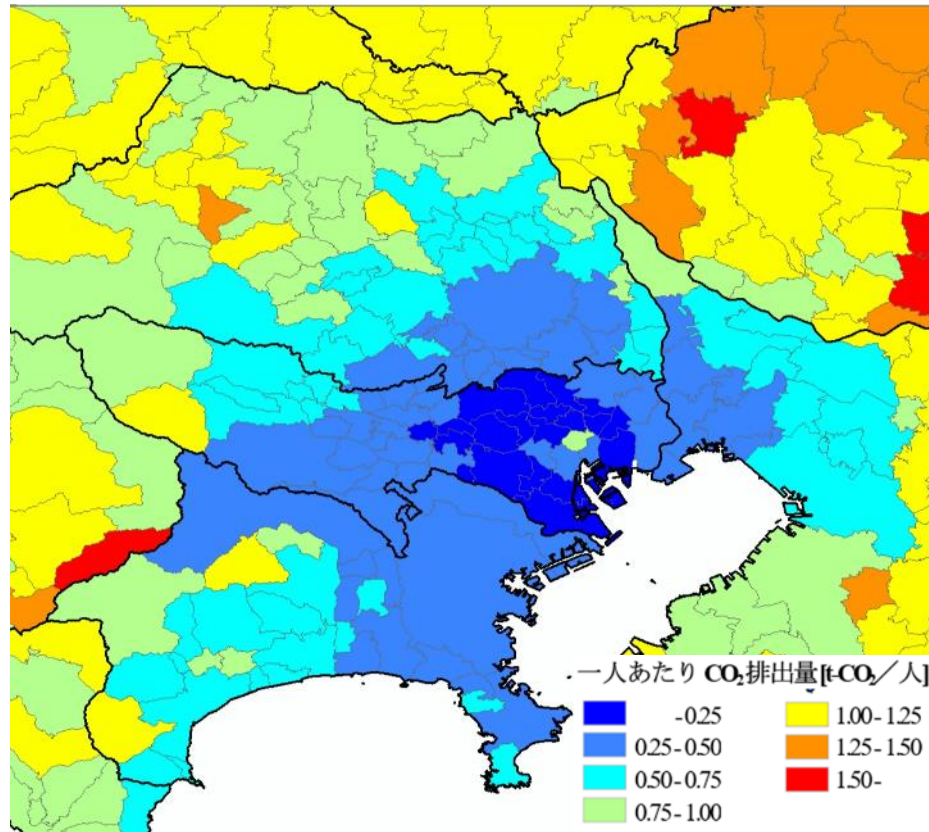
車両製造や道路建設等は
産業部門に含まれる

移動・輸送はモノやサー
ビスにアクセスするため
重要



出典：温室効果ガスインベントリオフィス

移動で、CO₂はどれくらい発生しているか？



年間一人あたり乗用車CO₂排出量(2015)

1人あたり年間乗用車CO₂排出量
武蔵野市0.21 と少ない。

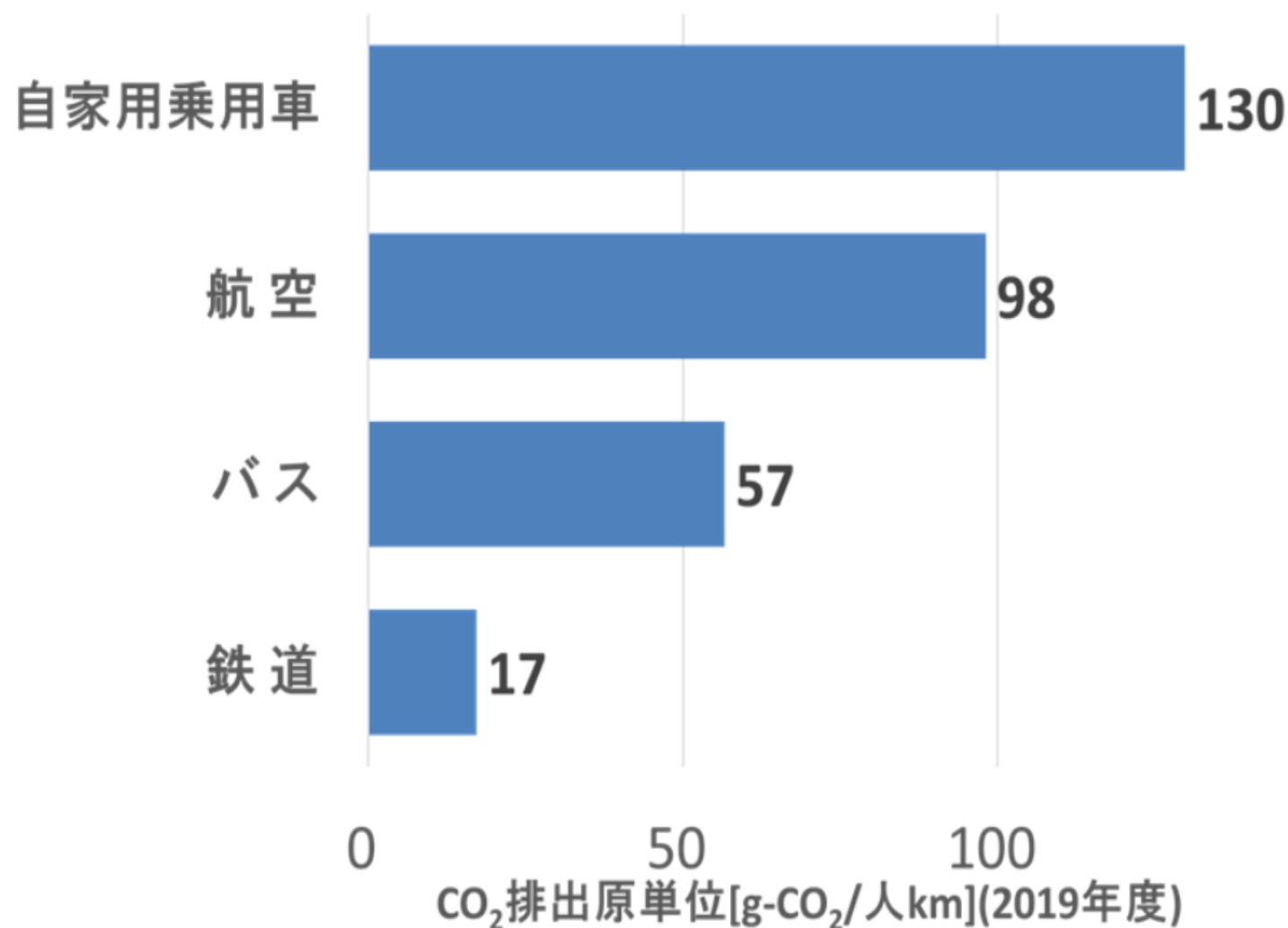
< 全国0.82 (t-CO₂/年/人)

人口密度が高く、施設等も近い。
公共交通が整備されている

- 移動距離が短くて済む
- 徒歩・自転車利用が多い
- 鉄道利用機会が多い

ただし、脱炭素には達していない

輸送量当たりの二酸化炭素の排出量(旅客)



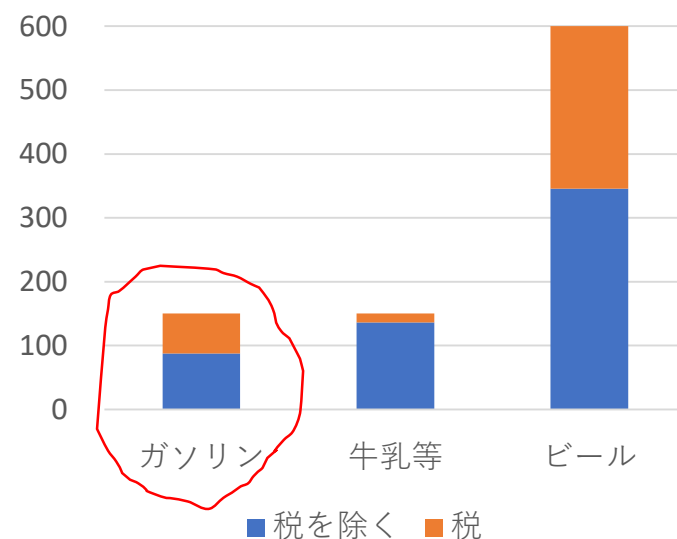
※ 温室効果ガスインベントリオフィス:「日本の温室効果ガス排出量データ」、国土交通省:「自動車輸送統計」、「航空輸送統計」、「鉄道輸送統計」より、国土交通省 環境政策課作成

ガソリンは安くて便利（だった）

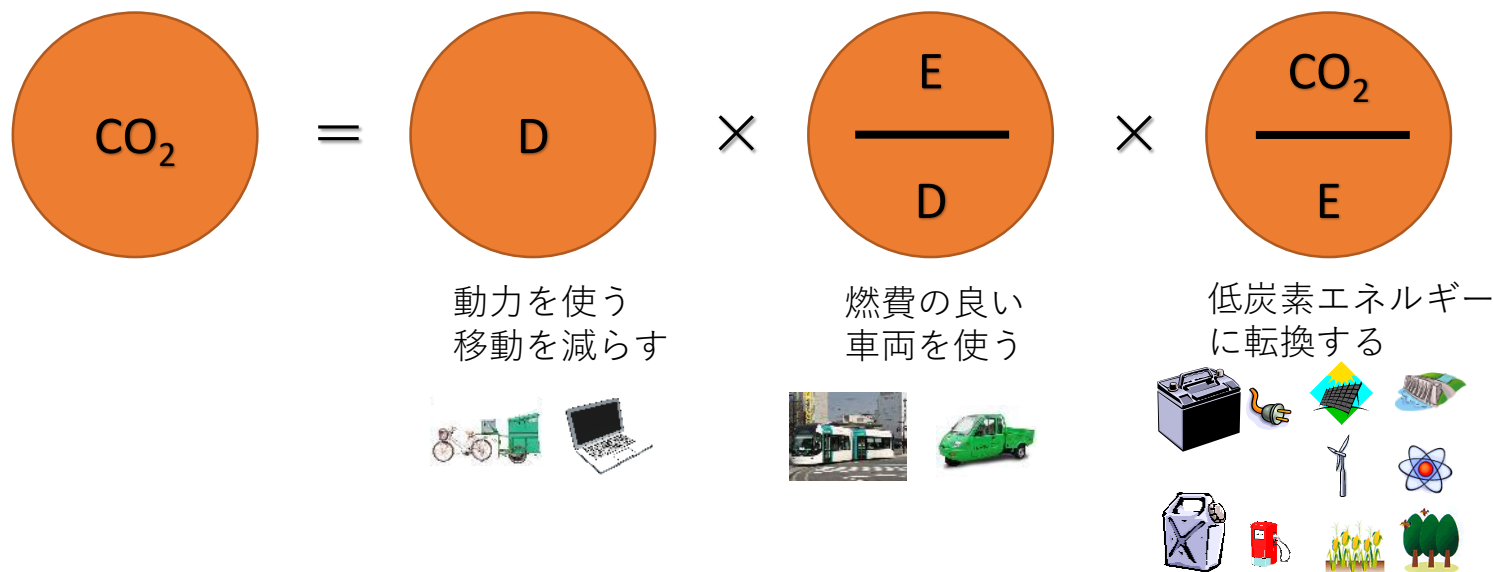
- 揮発しやすい液体燃料
- エネルギー密度（重量や体積あたりの熱量）が大きい割に扱いやすい
 - 電池は（100倍→）約10倍重い/大きい
- 安い：約150円／ℓ
 - 牛乳やミネラルウォーターと同じくらい（消費税約14円＋揮発油税48.6円）
 - ビールは約600円／ℓ（消費税約54円＋酒税200円）
 - たばこの税負担率は約63%
- 将来は・・・？
 - 炭素価格100ドル／t-CO₂は、約32円／ℓに相当（135円／ドル、2,360g-CO₂／ℓで試算）



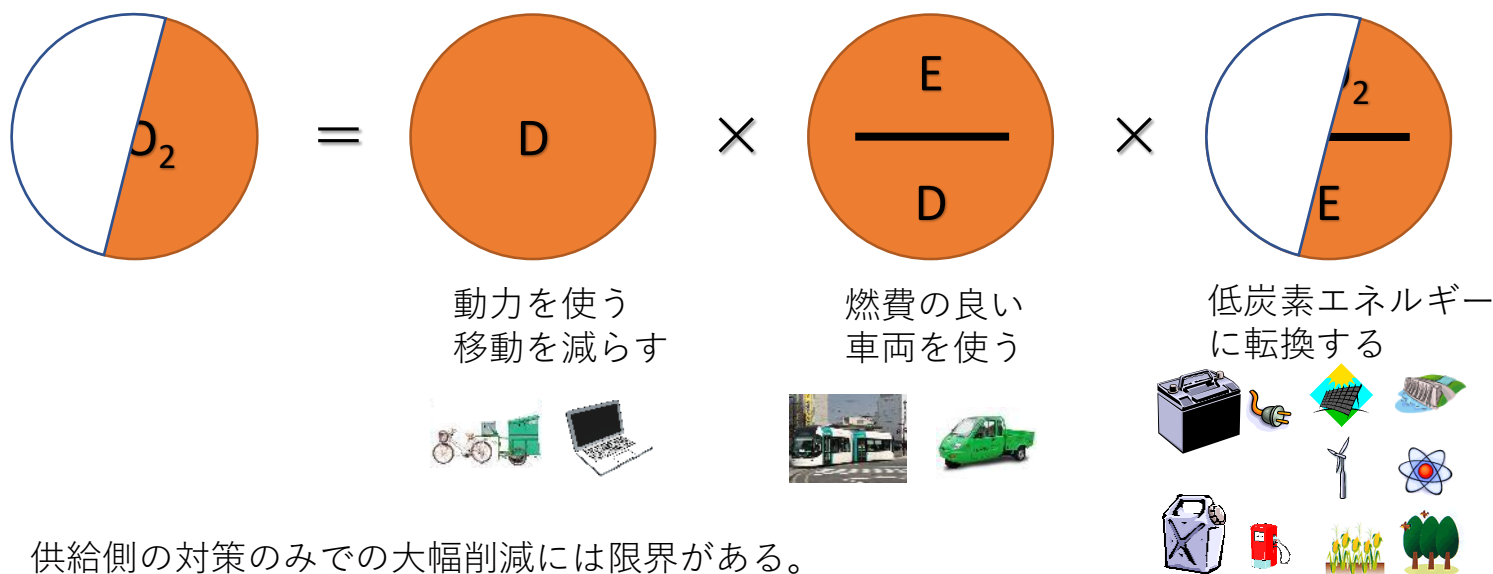
1ℓあたりの価格



移動の脱炭素の方法



移動の脱炭素の方法

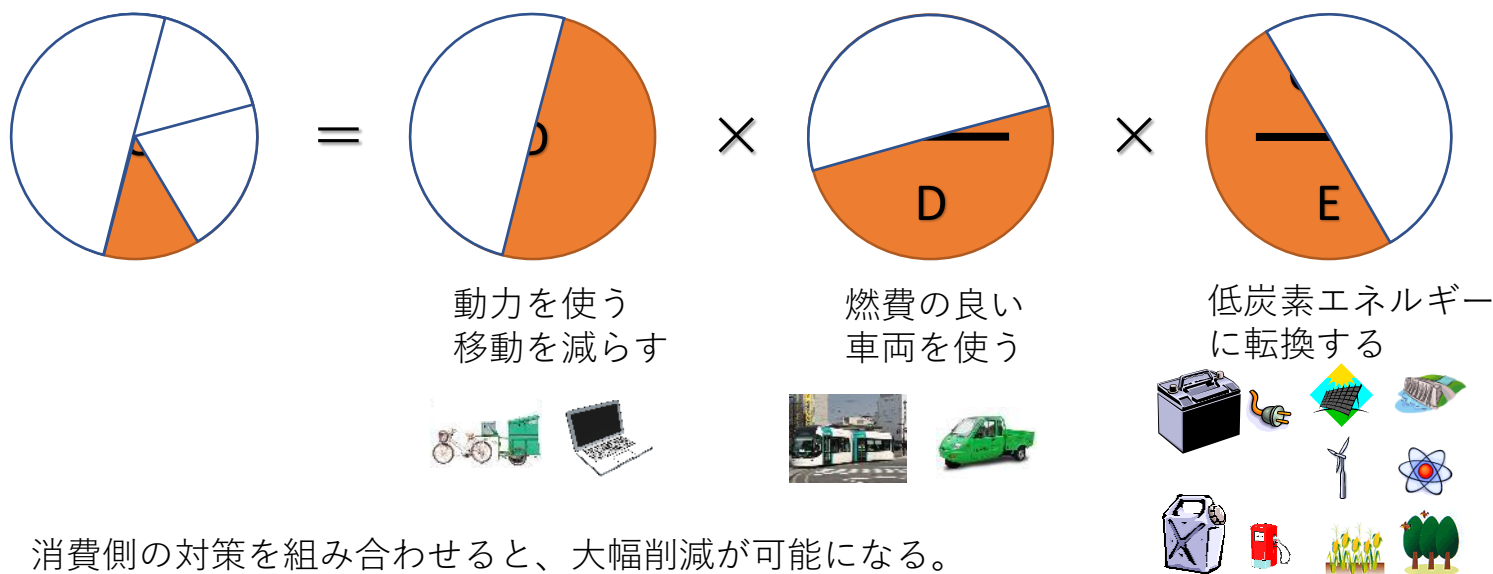


供給側の対策のみでの大幅削減には限界がある。

残る炭素排出は、高額のコストをかけて吸収・固定される。

移動や輸送が高コストとなり、生活を圧迫するおそれ。

移動の脱炭素の方法



消費側の対策を組み合わせると、大幅削減が可能になる。

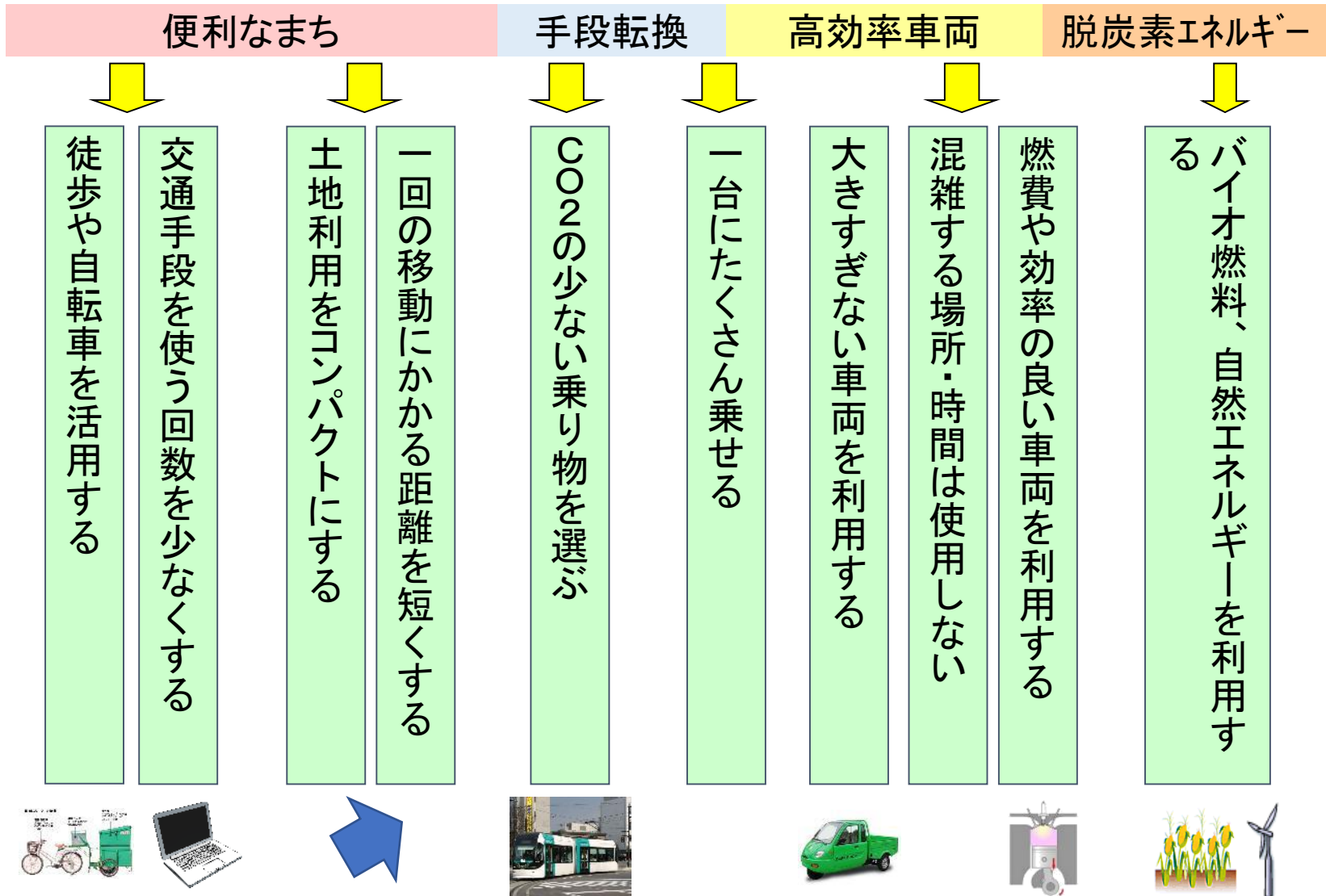
どうしても残る炭素排出は、一定の費用をかけて吸収・固定される。

移動や輸送のコスト上昇を抑え、生活を維持することに役立つ。

さまざまな工夫で大幅削減

出典：都市計画論文集42(3), 2007

$$CO_2 = \text{交通サービス} \times \frac{\text{輸送キロ}}{\text{交通サービス}} \times \sum_{\text{交通手段}} \left(\frac{\text{走行台キロ}}{\text{輸送キロ}} \times \frac{\text{燃料消費量}}{\text{走行台キロ}} \times \frac{CO_2 \text{排出係数}}{\text{燃料消費量}} \right)$$



便利なまち

A マイカー中心

面的展開型の土地利用



電気自動車、ハイブリッド



B 公共交通と色々な手段の組合せ

拠点連携型の土地利用

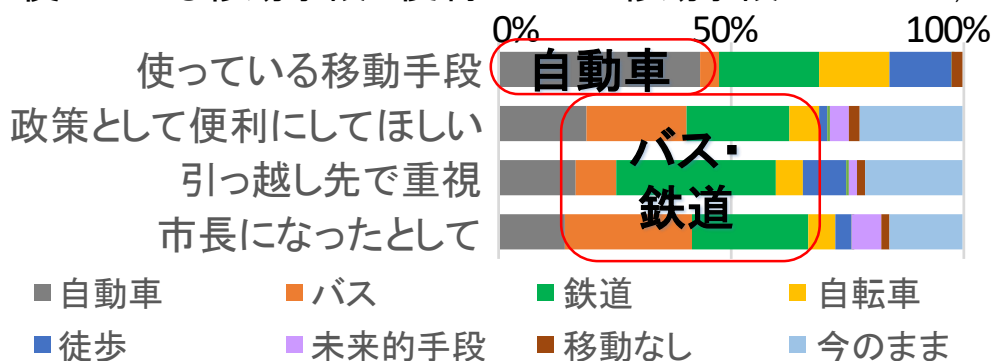


鉄軌道系＋徒歩／パーソルビリティ



どの交通手段を便利にしていくか

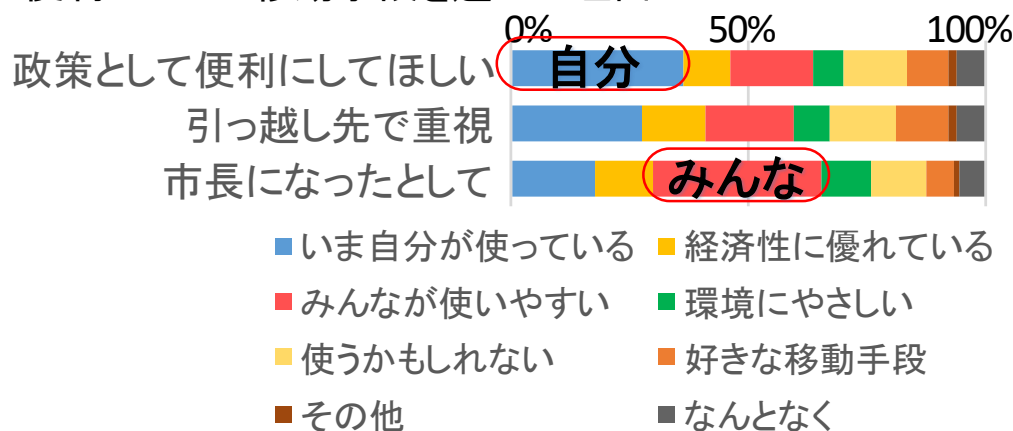
使っている移動手段と便利にしたい移動手段



いま使っている交通手段を便利にしてほしいとは限らない

- バスを便利にとの声
- 引っ越せるなら鉄道や徒歩
- 市長としてバス・鉄道を便利に

便利にしたい移動手段を選んだ理由



- 「みんなが使いやすい」視点



「ユーザー」としてでなく、「市民」として、まちの未来を考え、その意志を反映させることが重要

脱炭素かわさき市民会議からの提言の例

移動 27項目		主要な提言の内容	
1	<u>公共交通機関が便利で自家用車に依存せずに生活できるまち</u>	10	・公共交通整備の水準を上げる（インフラ、モビリティマネジメント等） ・拠点連携型の都市計画（コンパクト、公共交通・徒歩・自転車と連携） ・乗り合いタクシー等の地域シェアリング交通の整備 ・ゼロカーボン配達の促進
2	<u>徒歩・自転車</u> で暮らせるまち	7	・自転車の通行環境の整備（2050年までに300kmの自転車通行環境、駐輪場の整備（駐車場を駐輪場にするなど） ・歩行者の通行の整備（バリアフリーの歩行者ネットワーク、ランジットモールの整備） ・シェアサイクルの整備 ・自転車利用にインセンティブ（企業の奨励、電動自転車の普及等）
3	<u>電気自動車</u> が普及したまち	8	・電気自動車普及へのインセンティブ（税制、計画的普及政策、カーシェアリングにおける電気自動車の導入） ・市や公共交通における電動車両化の率先 ・EV充電器の普及（集合住宅での普及策、駐車場に充電装置の設置等）
4	横断的な取組	2	・拠点駅（川崎駅東側、武蔵小杉、溝の口、新百合ヶ丘）において、モデルプロジェクトを立上げ、その成果を検証し、全市に拡げる

脱炭素かわさき市民会議の例

移動

バスや鉄道の利便性向上→

公共交通は利用促進

公共交通の利用促進→

拠点整備と交通体系→

地域シェアリング→

ゼロカーボン配達→

自転車の利便性向上→

歩行者の利便性向上→

シェアサイクル→

歩行者・自転車は利便性向上

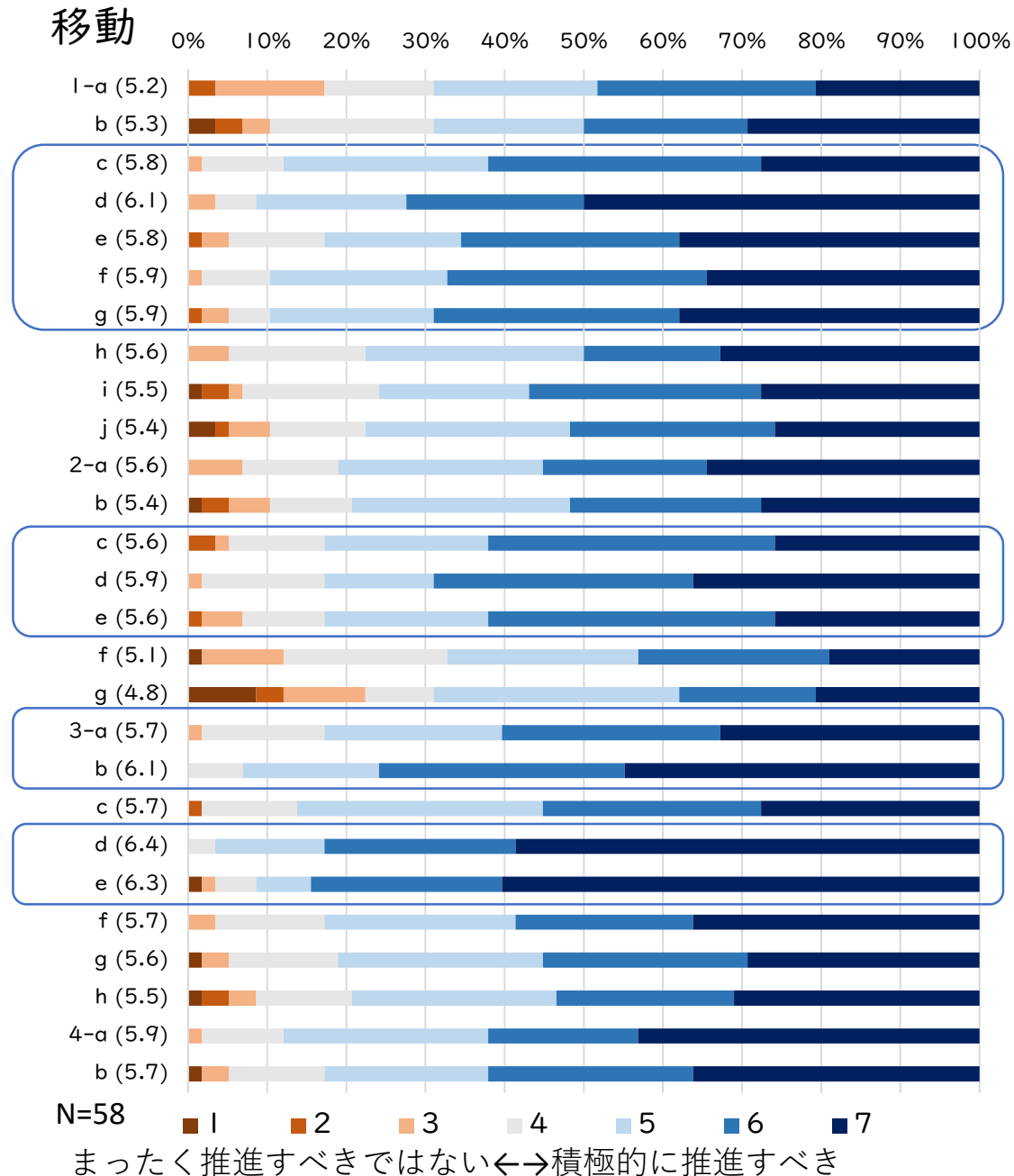
自転車の利用促進→

電動車両優遇税制、導入目標→

バス、タクシー、公用車の電動化→

充電器の普及→

横断的な取組→



第一回の成果から

水と**緑** 並木・街路樹
アスファルト減らす
涼しい 澄んだ空気
森林 土 牛 花

畑で自給自足

地産地消（再エネも）

充電スポット
EV化 **EV**シェア
水素・蓄電

公共交通CN

EVバス 再エネ電車
バス→トラム

事故ゼロ 安全
静か 車少ない

住みよい 駅周辺を人中心
遊びや学び テラス席
みんなにやさしい 楽しい
公園 子育て 話しあい

個性的な場所
災害に強い

また来たい
気軽に会える

シェアリング

炭素税
商業施設CN

屋根付き自転車
駐輪場

自転車の通路

運動に適した
走りやすい

歩きやすい

共有スペース
人と人との
つながり

まちで**仕事**
在宅勤務
VR活用

イノベーション
を生み出す仕事

知りたいこと

- 参加者のみなさんが考える
脱炭素社会での動く、働く（学ぶ）、遊ぶ
- 多様な生活者の多様な場面
- 武蔵野市の伸ばしたいところ、変えたいところ
- いまは市場がない／価格が高いけれども、20～30年後に向けて備えるべき移動手段やまちの姿

参考

個人の行動変容と社会の構造転換

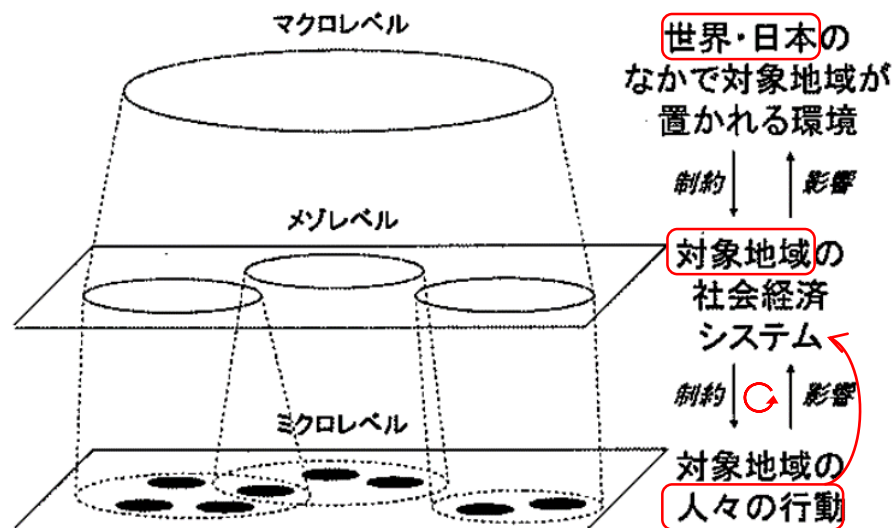


図1 マルチレベル思考

注) Geels, 2002 に加筆

出典：松浦正浩(2017)トランジション・マネジメントによる
環境構造転換の考え方と方法論. 環境情報科学, 46-4, 17-22.

- **個人の行動**は、**地域社会**を介して、**国や世界**に制約され／影響を与える相互関係がある

市民は、生活者として環境配慮行動をするだけでなく、政策決定主体として社会に働きかけることも重要



- 移動の転換
(トランジション)

移動の転換を後押しする政策とは？（欧州の例）

ハイブリッド車も禁止！

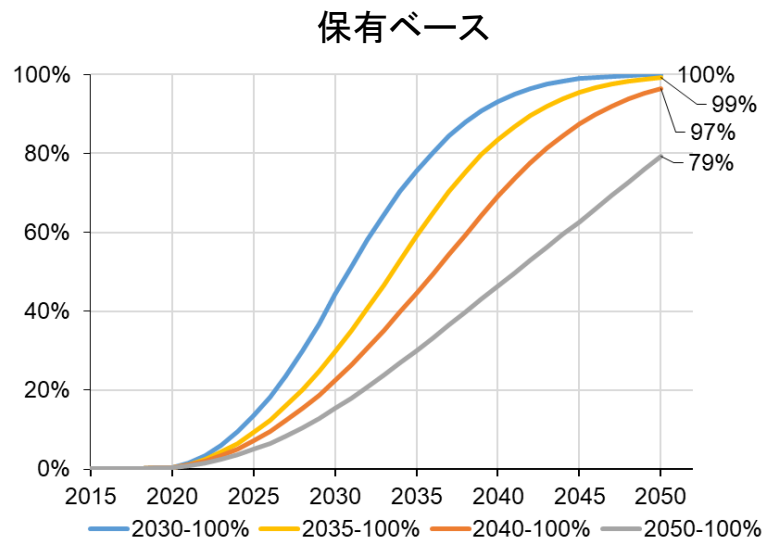
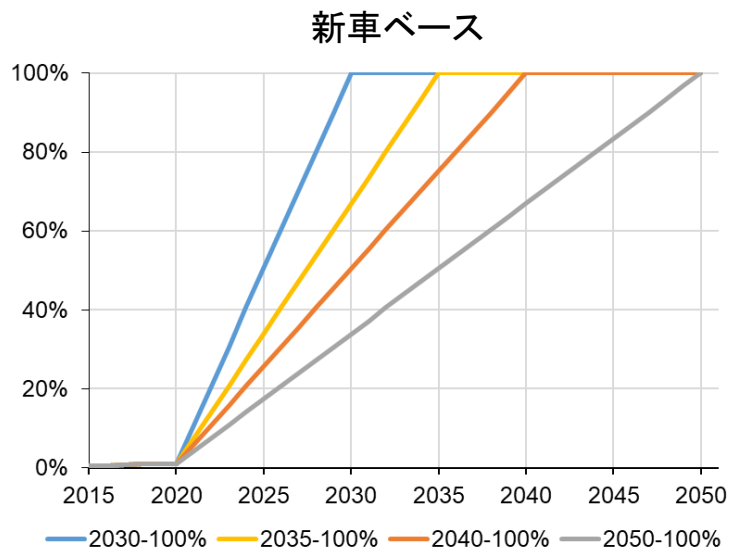
- 高効率車両・脱炭素エネルギー
 - ガソリン・ディーゼル新車販売を2030～2035年までに禁止（⇒2030年）
 - 1.4 トンを越える重量車両への課税（⇒1.8トン）
 - 多排出車両の中心部への乗り入れ禁止。速度制限
- 公共交通の改善と利用支援
 - 4時間以内の代替鉄道等がある場合の国内空路利用を禁止（⇒2.5時間）
 - 鉄道運賃の税額10%から5.5%に低減（⇒不採用）
 - 公設民営：バス・鉄道等の整備と料金引き下げを政策的に進める
- 便利なまち
 - 駅や商店、病院、学校等へ徒歩15分で行けるまちを目指す
 - 徒歩、車いすで動きやすい、十分な幅、日陰・雨除けのネットワーク

政策は多様：販売禁止、通行制限、広告規制、税制優遇、助成金、公共事業、開発投資、企業等での削減計画、見える化、カーボンオフセット義務化

【運輸部門】 電動自動車導入シェア

- 下図は、電動自動車（BEV・FCV）について新車ベースでの導入シェアの将来値を想定した場合に、保有ベースでのシェアがどのようなになるかを推計したものである。
- 2050年までに保有ベースの100%を電動自動車（BEV・FCV）とするためには、2035年よりも前の時点で新車ベースでの電動自動車のシェアを100%とすることが必要である。

< 電動自動車導入シェア >

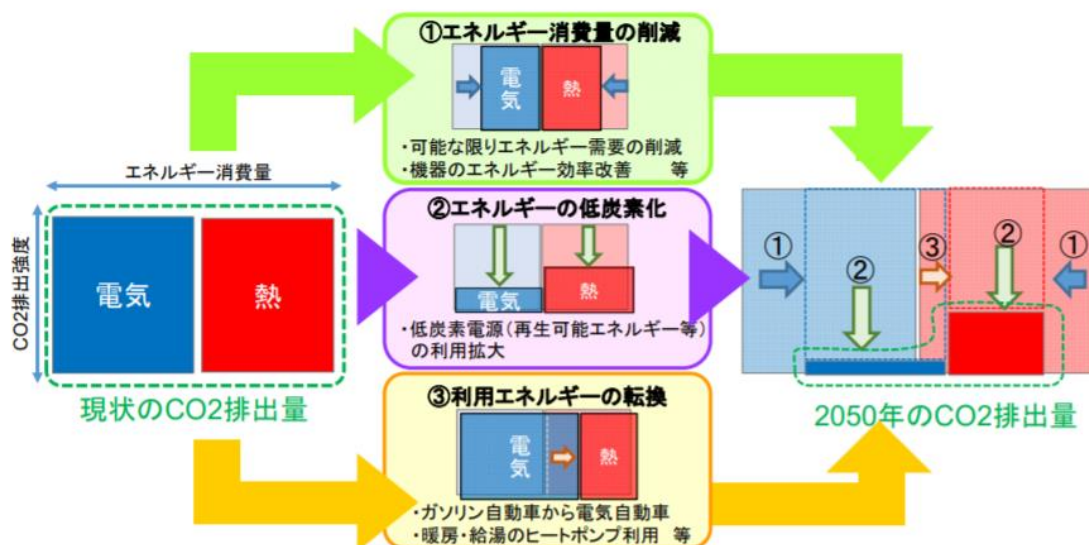


参考

脱炭素社会の実現に向けた対策の方向性

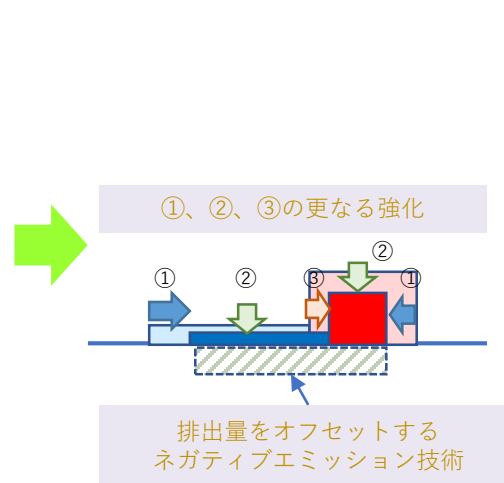
- 脱炭素社会の実現のためには、①エネルギー消費量の削減、②使用するエネルギーの低炭素化、③利用エネルギーの転換を総合的に進めていくことが重要である。
- カーボンニュートラルを実現するためには、①～③の強化とともに、ネガティブエミッション技術※の導入が不可欠になる。

< 脱炭素社会実現に向けた方向性について（イメージ図） >



（出典）環境省（2015）温室効果ガス削減中長期ビジョン検討会 とりまとめ（破線までの図）

< ネットゼロのための
ネガティブエミッション技術 >



※ ネガティブエミッション技術：大気中のCO2を人為的に回収または吸収させ、それを再放出しない形で、長期的に貯留する技術・実践・行為。植林・再植林、バイオ炭、土壌炭素貯留、湿地・沿岸再生（ブルーカーボン）、バイオマスエネルギー炭素回収貯留（BECCS）、風化促進、直接炭素貯留（DAC）、海洋アルカリ化、鉱物炭化など。（参考文献：Minxら(2018) Negative Emissions—Part 1: Research Landscape and Synthesis, UNEP(2017) The emission gap Report 2017）

質 疑

グループ討議

グループ討議（第3回会議）

動く・働く（学ぶ）・遊ぶ

1. 全体説明【5分】
2. グループ討議【50分】
 - 行動【15分】 
 - 波及効果【15分】 
 - まとめ【20分】 
3. 発表（3グループ）【15分】
4. 振り返り【10分】



動く・働く（学ぶ）・遊ぶ

自分／みんなで できること



どんな工夫を
する？

どんな移動手段
を選ぶ？

働き方、遊び方
を変える？

行動

15分

① 各自で考える【5分】

➤ 付箋に書き出す

➤ メモを取り、チャット入力

② 発表する【10分】

黄色の付箋を使用

※オレンジ：オンライングループ

動く・働く（学ぶ）・遊ぶ

自分／みんなで できること



波及効果

15分

便利になる？

健康になる？

将来を考えて
備えるべきことは？

まち・社会は
どうなると
よい？

① 各自で考える【5分】

➤ 付箋に書き出す

➤ メモを取り、チャット入力

② 発表する【10分】

ピンク色の付箋を使用

※オレンジ：オンライングループ

動く・働く（学ぶ）・遊ぶ

自分／みんなで できること



必要な
支援は？

問題・
課題は？

武蔵野市の
伸ばしたいところ
変えたいところ

まとめ

20分

- ① 振り返る
- ② 追加・整理する

緑色の付箋を使用

グループ討議にあたっての注意事項



- ✓ 対話はキャッチボール
- ✓ 短く話そう、よく聞こう
- ✓ 気軽に、市民同士で
直接やり取りしてみましよう
- ✓ 思いつき、突拍子のないアイ
デアも歓迎（自由に発言）
- ✓ 他の人の発言を否定しない、
さえぎらない、批判しない

Zoom操作（グループ討議）

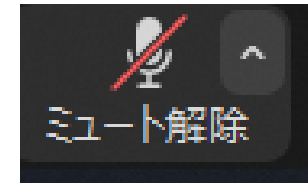
<マイク>

- ・ オフ
- ・ 発言するとき⇒オン

オン



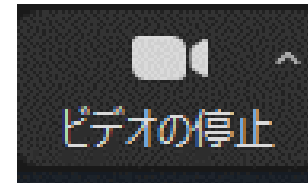
オフ



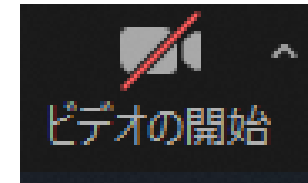
<カメラ>

- ・ オン（ビデオの開始）
- ・ 通信状況が悪いとき
⇒オフ（ビデオの停止）

オン



オフ



<意見提出>

- ・ チャットを使って
意見を送信
(ファシリテータの指示を受け)



送信先: 全員 ▼

ここにメッセージを入力します。。。

発表

振り返り

その他

事務連絡

1. アンケートの提出

回答期限：**10月3日（月）**

- 市民会議での理解や討議を深めるため、今後の市民会議の運営に生かすため
- 集計結果は、次回会議等で報告



<https://questant.jp/q/B1FJ1OPS>

後日メールで回答URLを送付します。
また、QRコードは受付に掲示しています。

2. グループ討議の結果・次回への参考情報

- 概ね1～2週間後にWEB掲載（URL）

3. 記録動画（グループ討議を除く）

- 概ね1～2週間後にWEB掲載（URL）

4. 武蔵野市気候市民会議（第4回）

10月25日（火） 午後6時30分～

事務連絡

5. 名札返却のお願い（現地参加の方）

➤名札は外してファシリテータにお戻しく下さい。

6. 報酬のお渡しについて （現地参加の方）

➤受領証に氏名を記入し、ファシリテータに提出してください。クオカードをお渡しします。

（オンライン参加の方）

➤後日、郵送でお送りします。

閉 会